

## 令和6年度 第1回キャリア教育検討会議 委員発言要旨

令和6年6月5日

委員名	発言要旨
<b>飯尾委員</b> (コーケン工業(株))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は西部の参加企業が少なかったので、受入企業の地域バランスが取れるとよい。</li> <li>・製造業を早いタイミングで知ってもらえるよう、企業も積極的に取り組んでいかなければならない。</li> </ul>
<b>池ヶ谷委員</b> (静岡産業大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この取組は学生だけでなく、企業や大学関係者が成長する機会でもあり、多くの学生が本音で参加できる学びの場とすることで、学生と企業、学生同士、企業同士においても深い学びと気づきを得られることにつながる。</li> <li>・働くことと暮らすこと考え方が重要になっており、ライフとワークにおける静岡県の持つポテンシャルを、若者にポジティブに発信することが大事である。</li> </ul>
<b>宇賀田座長</b> (静岡大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した学生を組織化し、事前の説明会で経験を発表してもらうなど、プログラムを応援するチームを作ってはどうか。学生にとってもガクチカにつながる。</li> <li>・静岡で働くことが自分達の生活に深く関わっていること、人とのつながりをストーリー立てて発信することで、人口流出の問題に踏み込むことができる。</li> </ul>
<b>小野委員</b> (しずおか焼津信用金庫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の目標を企業に早めに提示してもらえると、学生の希望に沿ったプログラムが立てやすい。</li> <li>・「地域に貢献したい」という思いを若い世代から培っていく必要がある。</li> </ul>
<b>近藤委員</b> (ELFIE GREEN(株))	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業実習の様子を伝えるため、プログラムに参加している学生の様子を短くまとめた動画を作成し、公開してはどうか。</li> <li>・参加した学生の経験談や考え方を話せる機会があれば、参加に迷っている学生の背中を押すことができる。</li> </ul>
<b>鈴木委員</b> (株)サンソフト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の企業で実習をすることで学びが双発がされ、広がっていくので、学生には複数の企業での実習を勧めてほしい。</li> <li>・事後学習で企業の人事担当者と話をする時間が貴重であった。若手のリクルーターが参加する新しい機会を設けるなど、学生だけでなく、受入企業の質の向上も図れるとよい。</li> <li>・大学生に限らず、若い世代から地元の情報に触れていくことが、県内定着につながる教育になり得る。</li> </ul>
<b>松浦委員</b> (静岡文化芸術大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムだけでも勉強になるが、その後のフォローとして、イベントの案内等を行い、次に繋げていけるとよい。</li> <li>・複数の内定をもらう学生にとって、就職先を選択する最後の決め手は何なのかが、県内定着のヒントになる。</li> </ul>

<p>望月委員 (常葉大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県内から大学生の流出を止めることが課題なので、県内の大学生に確実に周知することにウエイトを置き、いろいろな企業を知ってもらう機会にした方がよい。</li><li>・ 最近の学生の動向は掴みにくく、業界や条件という志向が毎年のように変わっており、企業の選び方や見方が多様化又は変化している。現在は、インターネットが企業選択の主な手段となっているが、今回の機会を通じて、実際に現場を見て会社とはこういうところだということを、学生に啓蒙していくことが大事である。</li></ul>
------------------------	--